

ふれあいひろば



[患者とともにある全人的医療]

肺癌の放射線治療



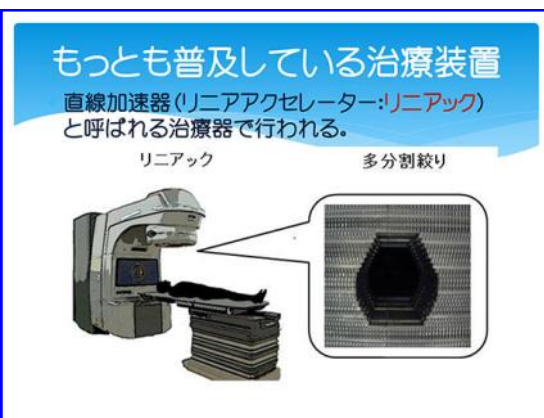
放射線治療科 土田恵美子

放射線治療は放射線を病変部に当てる治療法で、手術、化学療法と共に、肺癌に対する主要な治療法の一つです。治療した部位のみに効果を期待できる一方、副作用も基本的には治療した部位にしか生じません。全身への影響が比較的少なく、高齢や全身状態がよくない患者さんでも治療を行いやすいという特徴があります。癌治療の目標には根治(完全に治す)、延命、緩和(苦痛となっている症状を和らげる)の三つがありますが、放射線治療はこのいずれの目的でも用

いることができます。放射線は、細胞が分裂して増えるために必要な遺伝子を切断するこ

とで細胞に障害を起し、癌細胞は分裂して増えることができなくなる、あるいは死滅していく運命をたどります。

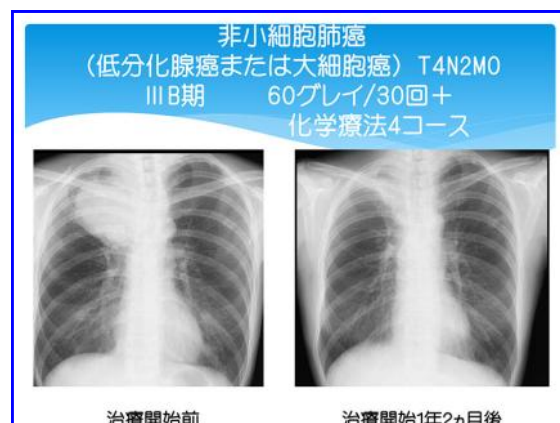
肺癌の放射線治療においては、化学療法との同時併用や、線量を病巣に正確に集中させる技術(定位放射線治療(俗称:ピンポイント治療))により、治療成績の向上が得られています。肺癌は小細胞癌(全体の15%)と非小細胞癌(85%)に大きく分けられます。小細胞肺癌は非小細胞肺癌と比較して、増殖が速く早期に転移しやすいという性質がありますが、化学療法・放射線治療に対する感受性が高い(よく効く)という特色もあります。



非小細胞肺癌の根治目的の放射線治療は、高齢者や全身状態不良の患者さんを除けば、化学療法と2グレイ×30回60グレイの放射線治療を同時に併用することが一般的です。末梢型(気管や食道、脊髄などから離れている部位)の、大きさが3cm程度までで転移がない病変の場合は、定位放射線治療の適応となります。1回線量を大きくし、短期間で治療することが多いですが、比較的新しい治療方法であり、長期間経った時の副作用についてはまだ十分わかっていません。

小細胞肺癌の場合は、手術可能なI期例を除くと、化学放射線療法が標準治療です。肺小細胞癌の放射線治療では、加速過分割照射と呼ばれる1回1.5グレイ×2回/日×15日(30回)45グレイ(1日2回治療を行い、3週間で治療を終えます。)の治療と化学療法を併用した場合の成績がもっとも優れていると報告されています。治療で腫瘍が消失した場合、予防的全脳照射(脳での再発予防目的)が標準治療として勧められています。

放射線治療において最も大切なことは、途中で治療を中断しないようにすることです。「継続は力なり」は、放射線治療の場合も当てはまります。



がんに関する相談

副院長 大谷哲也

人口の高齢化に伴いがんの罹患数は増加し、がんによる死亡は国民総死亡の約28%を占めています。新潟市民病院では、増加するがん患者さんに対して、各種のがんに関する相談や医療でのサポートに関する相談を受け付けています（表）。

「セカンドオピニオン」とは、がんの診断や治療法に関して、現在の主治医以外の専門医の意見を求める診療行為を意味します。当院では、他の医療機関のがんの診断結果や治療方針について、当院の医師の意見を参考にしたい方に、「セカンドオピニオン」を行っています。現在受診中の医療機関の紹介状や画像データを持参していただき、当院の医師の意見を聞くことが可能です。がんに関する情報を当院の専門医より収集することができる有用な方法です。「セカンドオピニオン」は、予約が必要です。

「がん患者指導管理」とは、がんと診断された患者さんに診断の詳しい結果や治療方針の説明を、医師が看護師と共同して行いその内容を文書等により提供します。初回の説明後も、がん患者さんの精神的なケアを継続的に行うことを目的に、医師または看護師が心理的不安を軽減するための面接を行っています。また、抗悪性腫瘍薬の治療を受ける方には、医師又は薬剤師により、薬の投与の必要性等について文書により説明を受けることが可能です。患者さんは、これらの精神的なケアや抗悪性腫瘍薬の説明

を、継続的に各々合計6回まで受けることが可能です。

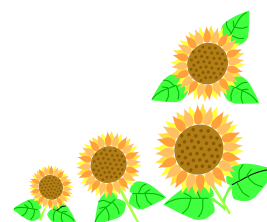
新潟市民病院は、平成18年8月、新潟県地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、それに伴い「がん相談支援センター」を開設しました。「がん相談支援センター」は、がんの不安や疑問についての相談を行い、がんの情報提供を行うことで、患者さんやそのご家族が安心して療養を続けることができることを目的に設置されています。福祉制度、経済面や社会生活の問題等の相談には、がん相談員研修を受けた医療ソーシャルワーカーが対応いたします。

「がん患者会」とは、がんに関する疑問や体験談などを話し合い、患者同士が互いに支え合い病気に取り組めることを目的に行っています。専門的な質問に対する回答は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどが行います。「がん患者サロン」は、患者さんやご家族同士が経験を語り合う場で、不安や孤独を解消する場となっています。乳がん患者さんのための「ひだまりサロン」も同様の役割を担っています。

以上のような各種のがん相談を患者さんご自身が利用することで、安心してがんの治療に専念できれば幸いです。

表：当院で受けられるがん相談

相談	対象	担当	料金
がんセカンドオピニオン	患者、家族	医師（専門医）	有料（保険は適用なし） （1時間程度で10,800円）
がん患者指導管理	患者	医師（緩和ケア研修を受けた担当医）、 認定看護師、認定薬剤師	有料（保険適応）
がん相談支援センター	患者、家族	医療ソーシャルワーカー	無料 8：30～17：15 随時 （病院の休診日除く）
がん患者会	患者、家族	医師、看護師、薬剤師、 栄養士、医療ソーシャルワーカー	無料 市民講座後 会場にて 17：00～18：00
がん患者サロン	患者、家族	医療ソーシャルワーカー	無料 第1・3木曜日 13：30～15：30 患者図書室
ひだまりサロン	乳がん患者	看護師	無料 不定期開催（ホームページ掲載） 201 会議室



「第1回市民病院いきいき講座」を開催しました

在宅看護 土田美智子

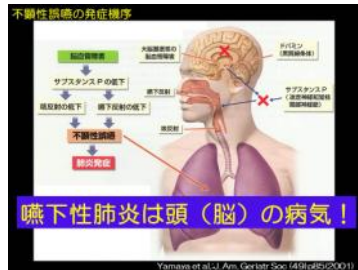
平成26年6月13日（金）、【第1回 市民病院いきいき講座】が市民病院本館講堂で開催されました。

地域住民の皆様へ学びの場を提供し、医療に関する理解を深めていただくこと、またいきいきと在宅生活を送るために、「上手なゴックンでいきいきライフ」と題した誤嚥性肺炎に関する講座を開催しました。

内容は、まず呼吸器内科 塚田医師より

「誤嚥性肺炎について」

の講義がありました。誤嚥性肺炎は全肺炎入院患者の7割弱を占めており、肺炎は老人の友とも言われているようです。そこで食事の工夫や食事時の姿勢、食べ方や食べさせ方の注意を勉強しました。続いて、リハビリテーション技術科 言語聴覚士3名により「摂食・嚥下機能とは」「誤嚥を防ぐには」「体験してみよう！嚥下体操とトロミ水の試飲」の講義と実演がありました。年を重ねると口の中が乾いたり、固い食べ物が嚥めなかったり、または舌やのどの筋力や、

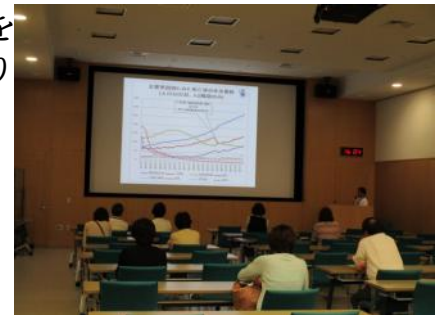


感覚が低下するなど様々な変化が起こり、飲み込めなくなり、誤嚥の危険性が高くなります。また、ムセのない誤嚥があることを学びました。

安全に食事をするために、飲み込みにくい食べ物と、飲み込みやすい食べ物の説明を受けたあと体操を体験しました。首のストレッチ・唾液の分泌を促す唾液腺のマッサージに続き、口と舌を中心とした運動を講師の歌声と共に行いました。さらに、参加者全員がお茶のトロミ水を作成し試飲しました。

最後には参加者の皆様からの質問もお受けしました。1時間という短い時間の講義でしたが、とても有意義な時間を共に過ごすことができました。

地域の皆様がいきいきと生活を送るためのヒントを提供できるような講座を企画したいと考えております。これからも参加をお待ちしております。



診療技術科 齋藤由里子

視能訓練士をご存知ですか？

皆さんは、「眼科で医師でも看護師でもないピンクの服を着て検査している人はだれ？」と思われたことはないでしょうか。

私たちは、視能訓練士といって国家資格をもった眼科領域の専門技術者です。

眼科診療において、医師が診断・治療に必要な眼科一般検査及び視能矯正を行っています。

眼科一般検査とは、視力・屈折・眼圧・視野・色覚・電気生理・超音波検査、写真撮影等です。遠視・近視・乱視といった屈折異常に関する検査、白内障・緑内障等の眼疾患に関する検査、眼鏡処方に関する検査等を行います。

「見えにくい」と一口に言っても、視力や眼鏡の度だけがその要因ではありません。近くがぼける、見えない部分がある、歪む、色がわかりにくいなど様々です。その症状に合わせた検査が必要です。

視能矯正とは、眼位検査・両眼視機能検査・眼筋機能検査、斜視・弱視訓練等です。斜視や弱視、眼筋麻痺等の治療に必要な視能検査や視能訓練を行います。

人間の一生に関わる「目」の健康管理。私たち視能訓練士は、乳幼児からお年寄りまで世代を超えて、皆さんの大切な目の健康を守るお手伝いをさせていただきます。

視能訓練士協会認定の認定視能訓練士もおります。

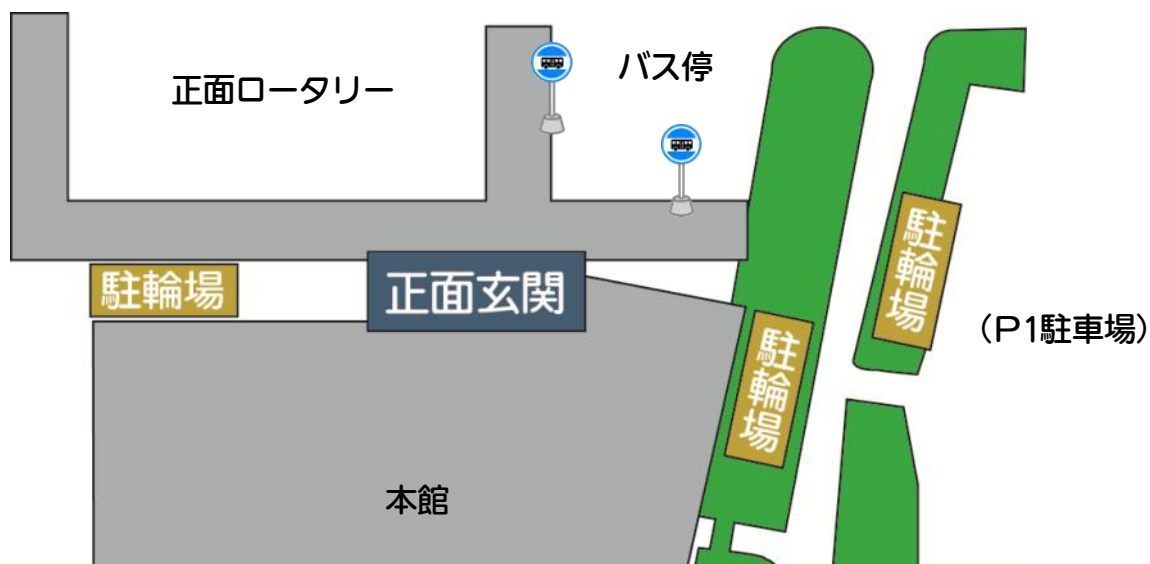
目でお困りのことがございましたらお気軽にお声がけください。



駐輪場の一部利用禁止について

管理課 施設係

公園線側で工事が始まり、平成27年3月末まで公園線側にある駐輪場が、使用できなくなりました。ご迷惑をおかけしますが、正面玄関側の駐輪場をご利用ください。
ご理解ご協力をお願いします。



登録医の紹介

医院名 : さくらひふ科 (医療法人さくら皮膚科医院) 院長 : 西條 忍
診療科目 : 皮膚科、アレルギー科
住所 : 新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ3F
電話番号 : 025-245-1000
診療時間 : 月・火・木・金 10:00~13:00 15:00~19:00
土 10:00~13:00
休診日 : 土曜午後、水曜、日曜・祝日
自院特徴と診療方針 :



社) 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医で (社) 日本アレルギー学会認定アレルギー専門医の女性医師による皮膚科診療所です。

患者さんの話をよく聞き、皮膚をよく見せていただいて診療をすすめるのがモットーで、患者さんとの会話を重視しています。

市民病院のホームページもご覧ください
<http://www.hosp.niigata.niigata.jp/>

新潟市民病院 広報広聴委員会

新潟市中央区鐘木463-7

電話 025 (281) 5151

Fax 025 (281) 5187

編集後記

病院の近くの「いくとびあ食花」は、夜はイルミネーションがきれいです。

まだまだ暑い日が続きますが、夕涼みにいかがでしょうか。

(Y.S.)